



Q 高学年になる子供がよそよそしくなり、会話も減りました。この時期の子供は何を考えているのでしょうか。

A 身体の変化が著しく、自立と依存が共存する不安定な時期です。子供と一緒に機会を作るのもいいでしょう。

自立と依存で揺れる

時代が変わっても、子育てには変わらない部分があります。思春期にさしかかる高学年から、心身の変化が著しい時期です。「もう子供じゃない」と反抗したかと思えば、甘えてきたりして、自立と依存の間を揺れ動いています。でも決して突き放したりはしないでください。

学習の進捗についていけないかったり、友達と比べて劣等感を持つたり、この時期の子供には、それまで感じたことのない感情も生まれてきます。何でも親に話していた子供も、友達と

の関係が強くなると、親に入ってきてほしくないなど、秘密をもつようになってたりしますが、それは自然なことです。

これを叱ったり、からかったりしてはいけません。子供のプライドが傷つくからです。そのまときの子供の気持ちを、そのまま受け入れてあげましょう。

一対一の時間を大切に

初めての子供だと親は戸惑うかもしれませんが、親もそんなふうになってきたのです。友達を「合わせ鏡」にして自分を発見し、成長する時期です。

「少年は手を離せ、目を離す

な」と言います。サルの社会では、子ザルの活動範囲が広がると親ザルは遠くから見守り、子ザルが声を上げると、親ザルはすっ飛んで行きますね。

ただ、問題行動を起こしたりする時は、「自分のことを分かってほしい」という合図です。仕事で忙しいお父さんお母さんもその時はしっかり子供の相手をしてあげてください。

親と向き合って話したり、一緒に楽しい時間を過ごしたりすると、子供は愛されていると感じ、照れてもその時のことをよく覚えているものです。それが親子の絆を強くします。